

## 研究課題名

# 当院におけるリハビリテーション介入および離床状況の再調査 —離床トライ導入前後の比較、離床トライ導入患者の分析—

### ・はじめに

脳卒中ガイドライン 2015 や近年の急性期リハビリテーションでは、脳血管患者の方に対する早期リハビリテーションの有効性は高く示されており、その提供体制が必要とされています。一方で、早期からのリハビリテーションに対しては症例や状態に応じたリスク管理が必要とされています。当院においては、脳神経外科医師との話し合いで、新たな安静度指示として、2018 年度から“離床トライ”を導入しました。離床とは、ベッドから起きて足を降ろして座ることまたは、立って歩くことです。離床トライ導入の目的は、最もリスクの高い初回の立位・座位といったリハビリテーション介入の結果を、主治医に報告することで、安全に早くからベッドから離れることができるようにするためです。

### ・対象

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日の間に、老年病研究所附属病院の 6 号病棟へ入院された脳血管疾患患者さんです。電子カルテの情報を見返して、データを集めさせていただきます。

対象となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡をください。

### ・研究内容

本研究では、離床トライ導入後の脳神経外科病棟入院患者さんの離床状況や予後の調査、離床トライの指示が出た患者さんの分析をすることで、離床トライ導入による効果や問題点の把握、運用手順の見直しの一助となると考えております。

### ・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、データと情報収集用紙は連結可能匿名化という方法を用いており、情報収集用紙やデータだけを見ても、個人が特定できないようになっています。また、それらのデータは老年病研究所附属病院リハビリテーション部理学療法室の施錠できる棚に保管し、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

### ・研究期間

当院倫理委員会承認後から令和 2 年 8 月 31 日までとします。

### ・医学上の貢献

本研究により、直接的に対象となった患者さんが利益をうけることはありませんが、今後、当院において安全に適切なリハビリテーションを提供するための基礎資料となり、それをもとにしたリハビリテーションを提供することができると思っています。

### ・研究責任者

老年病研究所附属病院 リハビリテーション部 理学療法士  
鈴木佳之

### ・共同研究者

老年病研究所附属病院 リハビリテーション部 理学療法士

小林将生、梅澤浩輝、齋藤徹、齋藤拓之、藤井一弥、高木脩真、日向翔也、  
志村貴文、岡田賢幸、田村祐樹

老年病研究所附属病院 リハビリテーション部 作業療法士

栗原純一、小柳慶起、北澤一樹、手島稜登

### ・連絡先

〒371-0847

群馬県前橋市大友町 3 丁目 26 番 8 号

Tel : 027-253-3311 (代表 : 公益財団法人老年病研究所附属病院)

担当 : 鈴木佳之 (研究責任者)